

民話 声の図書室

—民話の深い森に分け入って—

「民話 声の図書室」は、みやぎ民話の会が40年にわたって記録してきた、宮城県を中心とする民話語りの映像・音声を、せんだいメディアテークと協働し、だれもが活かせる共有財産として、未来へ受け渡していこうとする活動です。

3月2-3日の「としょかん・メディアテーク・フェスティバル」では、民話の森へ分け入る小径になればと、活動が指すものとみやぎ民話の会のあゆみを簡単に紹介しました。

今回は、民話の深い森にまず分け入っていくこと、民話の語り手を尋ね訪ねてあちこちの土地土地に足を運び一人ひとりの話に耳を傾けること、「採訪」と呼ばれる活動の姿に光を当て、これまでの会の活動記録を通してご紹介します。

●前半 5月3日～22日 9:00～22:00

これまでに会が主催してきた過去7回の「みやぎ民話の学校」の記録を展示します。みやぎ民話の会は語り手の採訪を重ねるなかで、伝承の語り手とまっすぐに向きあい、その肉声の語りを聞きとってきました。そのかけがえのない語りの世界をなんとかみなさんにも手渡したくて、機関誌『民話』や『みやぎ民話の会叢書』などで、文字としての共有財産とすることに努めてきました。さらに、語り手と膝を交えその語りをじかに聞いてもらいたくて、「みやぎ民話の学校」を開いてきました。つまりそれは、採訪のおりの語りの座のゆたかなひとときを、少しでも味わってもらいたいという思いからでした。

●後半 5月24日～6月30日 9:00～22:00 (6月27日は休館日)

前半の展示に加えて、これまでの採訪活動の姿に目を向け、会のさまざまな記録資料などを通して紹介します。そして、1985年から三カ年かけて会が行った「宮城県民話伝承調査」で採訪し記録した民話、2011年3月11日の大津波によって大きな被害をこうむった県内沿岸集落に生きていた話たちのいくつかを、呼び起こしてみなさんに手渡したいと思いました。小さな小さな話たちですが、目をとめていただければと願っています。この話たちも、足で人を訪ねて耳で話を聞きとってきた、これまでの会の活動によって記録されたものなのです。

そして期間全体にわたり、宮城・山形・岩手の貴重な伝承の語り手15名の唄と語りを、長年会が積み重ねてきた文字資料・音声資料・映像資料によって、どなたでも自由に閲覧・視聴していただくことができます。これはまた、「民話声の図書室」が取り組んでいる活動の最初の成果でもあります。かけがえのない語りの座の体験を、語り手の声や姿の記録から感じていただければと願っています。

民話や語りにかかわっている方から、なんとなく心ひかれた方まで、気楽にぶらりと遊びにきてください。そして民話の深い森を、ともに歩いてみませんか。

「民話 声の図書室」プロジェクトチーム

会場:せんだいメディアテーク 7F 南側ラウンジ

お問い合わせ:022-713-4483(せんだいメディアテーク)

主催:民話 声の図書室プロジェクトチーム/せんだいメディアテーク